５平成２５年６月６日（木）

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会
会員の皆様へ

「田植時期　八ケ岳南麓の水事情」

今年も八ケ岳南麓は田植がほぼ終わり水田の水面も徐々に成長した稲苗が青さを増してきています。稲作と畑作が同時並行で目の回り忙しい日々が続いています。毎朝夕の田回りが日課となり稲田の水管理に気を配る毎日です。我が農場では昨年から稲作は面積６反歩、１反の田んぼ２枚、２反の田んぼ２枚に「亀の尾」、「ササシグレ」、「コガネモチ」の３種を田植しました。ところが「コガネモチ」を田植した１反部の田んぼの水持ちが悪い上、上流からの水量が細く今朝はとうとう干上がり状態になってしまい、本流の甲川からの取水口に行ってみると本流事態に水が少なく地元の農業委員さんに相談するしかないと尋ねました。親切にも田畑も無くなり雑木林へと入った水源近くまで案内して頂き、旧大泉村全体の農業用水の供給経路を説明してくれました。田園地帯から雑木林に入ると驚くほどの別荘地が展開します。かつて不動産業者による開発が進み別荘地の多くは上水道を井戸で賄っている関係で水源周辺の水量は減り、甲川の上流は小川のような細い流れとなってしまっています。大泉と言う村の名前の由来も名ばかりのものとなっているのです。豊富な水に恵まれているとは言え資源も無限ではありません。迷路のように張りめぐられている細い農業用水路も苦労した先人達の暮らしの遺産です。皮肉にも村人達が手放した田園地帯の上流に位置する山林は村中で営む農とは関係なく別荘団地と化し給排水も農を考慮することなく開発されてきているのです。誰もが等しく豊かな自然を享受出来る事は大切な事です。しかしその前提には長い歴史の中で構築されてきた地域社会の暮らしの有り様にも配慮した開発が為されなければなりません。これからはこの視点に立った地域の再開発で自然との共生を図っていきたいものです。

・田植機での田植をする受講生（5/25）

・田植後の田んぼ（5/26）

八巻珍男
メール　yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp　　携帯０８０－３０８０－３０１７